

魚病等実態把握指導*

小川 健・木村 創

近年、水産増養殖の急速な進展に伴ない、魚病による被害が増大し、水産増養殖の推進上重要な問題になっている。このため、水産用医薬品の適正使用および防疫措置等の指導を行うことにより魚病の発生および蔓延を防止し、魚病被害を軽減化させるとともに食品として安全な養殖魚生産の確保を図り、もって水産増養殖の健全な発展および養殖漁家経営の安定に資することを目的に、国の補助をうけて事業を実施した。

本事業は昭和55年度より、水産庁の水産資源保護対策事業の中で魚病等実態把握指導等事業、魚病対策指導事業として実施してきたが、本年度より内容の大幅な変更があり事業名も魚病対策事業と変更された。新しい事業では各県がそれぞれ実情に応じた魚類防疫対策の推進方向を定めることになっており、本県でも1984年9月20日、防疫推進構想を策定し、昭和63年度まではこの構想に基づいて魚類防疫対策を実施することになった。

本年度実施した事業の概要は次のとおりである。

1 魚類防疫対策事業

1) 防疫会議等

(1) 防疫会議

表1に示すとおり県内防疫会議を開催し、ブリおよびマダイの新しい疾病の防疫対策について検討した。

(2) 防疫検討会

防疫検討会は表2のとおり地域ごとに開催し、地域の代表者を選定した。

2) 防疫対策定期パトロール

魚病の適切な予防治療対策の指導および漁場の防疫監視のため、毎月1～2回、各養殖地域をパトロールした。

3) 魚病発生時の緊急対策

'84年11月19日、田辺湾内の養殖マダイに白点病が発生し、12月7日ごろから斃死が急増したため緊急対策として小割筏の沖合への移動を指導した。斃死は沖出し後2～3日で激減したが、マダイの0、1、2年魚あわせて同漁場全体で約30万尾程の被害があった。

4) 魚病発生防止対策

(1) 養殖場の定期観測

'84年4月から'85年3月まで毎月1回、各海域の漁場1～2ヶ所で、水温、DO、塩分量、透明度

* 魚病等実態把握指導費による

表 1 防疫会議開催状況

年月日	開催場所	主な構成員	主な議題
85.3.22	和歌山市	水産課 水産増殖試験場 水産業改良普及員 かん水養魚協会 各地域防疫検討会代表	ブリおよびマダイの新しい 疾病の防疫対策について

表 2 防疫検討会実施状況

海 域	対象漁協	日 時	場 所	議 題	地域代表者
北 部	唐尾, 小引浦 神谷, 比井崎	'85.1.29	神谷漁協	ブリおよびマダイの 新しい疾病について	小引浦漁協 万谷 治
中 部	田辺, 新庄 堅田, 白浜	1.30	堅田漁協	"	堅田漁協 今村 秀明
南 部	串本, 大島 須江, 古座	2.7	串本漁協	"	串本漁協 吉村 健三 大島 " 庄口 保男 " 乗田 孝雄
東 部	浦神, 勝浦	2.8	浦神漁協	"	浦神漁協 堀 弘人 勝浦 " 寺本 浅彦

を測定した。

(2) 魚病情報の収集・伝達

ブリ稚魚の腹水症, マダイの白点病, ボラの粘液胞子虫症等について, 南西海区水産研究所, 養殖研究所, 近隣県の水産試験場および県内養殖業者の間で, 発生情報等の収集・伝達を行った。

5) 種苗の魚病検査

ブリおよびマダイの養殖用種苗を対象に, ブリ 8 件, マダイ 8 件の魚病検査を行った。病原体が分離されたのは, それぞれ 7 件ずつであった。

6) 魚病講習会

'85年 3 月 13 日, 串本町串本の和歌山県漁民研修所において, 高知大学農学部楠田理一教授による「ブリおよびマダイの病害対策について」の魚病講習会を開催した。出席者は養殖業者, 漁協職員等 45 名であった。翌, 3 月 14 日には, 楠田理一教授による, 串本・古座地域浅海漁場における現地指導を行った。

2 魚病関連機械器具等整備事業

本年度は実施せず, 昭和 60 年度に実施予定。

3 水産用医薬品指導事業

1) 医薬品適正使用対策

水産課にて実施。

2) 医薬品残留検査

出荷のために水揚げされる養殖ブリを対象に、背部筋肉中の医薬品残留検査を行った。結果は表3に示すとおり、残留は認められなかった。残留分析は、財団法人日本冷凍食品検査協会、神戸事業所で実施した。

表3 ブリ筋肉中の医薬品残留検査結果

対象魚種	対象海域	対象医薬品の名称 (成分名)	検体採取 年 月 日	検体数	分析結果
ブリ1年魚	東部海域	エンボン酸スピラマイシン	'83.12.24	10	検出せず
ブリ1年魚	北部海域	エリスロマイシン	'83.12.25	10	〃
ブリ0年魚	中部海域	オキシリン酸	'83.12.27	10	〃